

# 校長室通信

令和 6 年 6 月 27 日号  
志免町立志免西小学校  
高良 祐治

令和 6 年度がスタートして約 3 ヶ月が過ぎようとしています。子どもたちは日々の学校生活を通して、今の学級や周りの友だちにもすっかり慣れ、毎日元気に過ごしています。一方で、様々な課題も見えてきました。社会生活を学ぶ上で大切な、学級や 1000 人を超える志免西小という集団生活を通して子どもたちは多くの経験をし、多くのことを学んでいます。どれだけ技術が進歩しても生涯を通じて様々な人々と関わることは避けては通れません。小学生という発達段階で学んでほしいことについて考えてみました。

## ルールとマナー

本年度の運動会は、昨年までの会場レイアウトを大きく変更しました。この変更についてははじめは「最前列に居座る人がいるのではないか」「日傘を差す人がいてトラブルになるのでは」「前の方の人が座ってくれなかったらどうする」等々、様々な心配をする意見が出ました。さらに、「折りたたみいすの使用禁止を伝えなくては」「日傘禁止を明記しないと」「トラックから 1.5 メートルくらいのところに線を引いて、それより前は立つことを禁止した方がいいのでは」等々様々な禁止事項が PTA などから提案されました。

しかし、後ろの人のことを考えれば前列の人は日傘を閉じ、座ることが当たり前だろうし、我が子の出番が終われば次の種目の保護者に譲ることが当たり前だろうとの考えから、あまり禁止事項は増やさないようにしました。その結果、当日は多くの保護者の来場がありましたが、お互いに譲り合いながら気持ちよく参観していただきました。

多くの人々が集まったり暮らしたりするときは、一定のルールは必要ですが、それが多くなるととても窮屈な生活になってしまいます。ルールが増えれば「ルールを破っていなければ何をやってもいい」、それはやめてほしいと伝えても「それがだめだどこに書いてあるのか」とムキになるなどギスギスした関係になっていきます。

子どもたちの学校生活にも様々なルールがありますが、ルールの周りはマナーで彩られているから過ごしやすいのであって、ルールを守れば何をやってもいいという考え方では、とても息苦しい学校生活になると思います。

朝、歩道橋で足を滑らせて転んだ低学年の子どもを高学年の男の子が介抱しながら保健室まで連れて行ってくれました。絵の具のバケツに水を入れたと

き、他の蛇口から水が滴っているのを見つけて、閉めてくれた女の子がいました。どちらも最近私が見かけた子どもたちの姿です。こんな小さな優しさがいっぱい学校にしていきたいと思っています。

## 丁寧さとやさしさ

学級に慣れてくると、それが「雑さ」となって現れてくることがあります。朝や授業の始めや終わり、給食時間などの挨拶がいい加減になったり、友だちへの語りかけ方が乱暴になったりするなど、丁寧さが欠けることで、誤解が生じたりトラブルになったりしてしまうこともあります。

時々子どもたちと話していると、こちらの問いかけに単語で返してくる子どもがいます。5W1H とは言いませんが、せめて主語や述語くらいは使って表現してほしいなと思います。子どもの言葉足らずな表現に対して、大人はついつい先走った解釈をして「つまり、～ということだね」と助け船を出してしまいがちです。授業の中でも、我々教師は「我慢して」子どもたちが伝えたいことを最後までしっかりと語ることができるように育てていかなければいけないと感じています。

この「雑さ」は、行動にも表れることがあります。引き出しから学習道具を机の上にドンツと置いてみたり、友だちとすれ違ったときにぶつかってしまったても謝らなかつたり、廊下を走って曲がり角で激しく他の人とぶつかってけがをしまつたり…。このような環境では安心して毎日を過ごすことはできないと思います。すし、このような行動がいじめや不登校の原因にもつながるのだと思います。

授業をはじめ学校生活の様々な場面で、自分の思いを丁寧に伝え、友だちの考えを優しい気持ちで聞くことを通して、心穏やかに学校生活を送ることができるように指導していきたいと思っています。